

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 15 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02879

研究課題名(和文) 現代日本の社会文化史と台湾 - 戦後台湾社会の文化継承、変遷の記録化

研究課題名(英文) Socio-Cultural History of Contemporary Japan and Taiwan: A Record of Cultural Inheritance and Transition in Post-War Taiwan

研究代表者

大谷 渡 (Ohya, Wataru)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：80340644

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本各地と台湾及び北欧において、資料収集と実地調査を行い、その研究成果を『台湾の戦後日本 敗戦を越えて生きた人びと』(東方出版刊)、及び『北欧から来た宣教師 戦後日本と自由キリスト教会』(東方出版刊)として出版した。研究成果の発信を目的とする研究集会は、孫傳秀松(元台湾総督府海外派遣篤志看護助手)を台湾から招いたシンポジウムのほか、北欧の女性宣教師と共に暮らした許麗娟を招いたシンポジウム「Miss.ハーゲンと瀬戸」、「北欧から来た宣教師と福井の人々」及び「Japan Mission of Pentecostal Church of Norway」(ノルウェー)を開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本人として育ち、戦争を体験した台湾の人びとが、戦後どのような人生を歩んだのか、その史実を掘り起こし、終戦時に篤志看護助手、学徒兵、航空廠少年工などだった人たちがその後の激変する台湾社会で紡いだ人生を、専門的知識に基づく学術的調査によって初めて明らかにした。その研究成果を出版した『台湾の戦後日本 敗戦を越えて生きた人びと』(東方出版刊)は、出版と同時に日本図書館協会の選定図書となった。国共内戦を逃れて台湾に渡った北欧の女性宣教師たちと、彼女らと親交を結んだ台湾人女性の戦後の人生を追った『北欧から来た宣教師 戦後日本と自由キリスト教会』(東方出版刊)は、研究課題を発展させたものである。

研究成果の概要(英文)：After collecting data and conducting field surveys in various parts of Japan, Taiwan and Northern Europe, I completed two books, "Postwar Taiwan after Japanese Occupation: The Complexities of Defeat" and "Missionaries from Northern Europe: Free-Christian Church in Postwar Japan" by Toho Shuppan. In addition, I organized four academic gatherings to present the research outcomes. These include the symposium with SUN Fu, Hsiu-sung a former volunteer assistance nurse from Office of the Governor-General of Taiwan. The other symposiums include "Miss Hagen and People of Seto" with Hsu, Li-chuan, who lived with the Norwegian missionary, as well as "Missionaries from Northern Europe and People of Fukui" and "Japan Mission of Pentecostal Church of Norway".

研究分野：日本近現代史

キーワード：日台関係史 戦後台湾 戦後日本 北欧自由キリスト教宣教師

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者(大谷)は、研究開始当初までの台湾における資料調査の過程において、日本統治下に生まれ育った60人を超える人たちから直接取材し、その生の声を記録するとともに、日本と台湾で収集した文字資料と照合し丹念な分析と検討を加え、その成果を『台湾と日本 激動の時代を生きた人びと』(大谷渡 東方出版 pp1-244 2008)、『看護婦たちの南方戦線 帝国の落日を背負って』(大谷渡 東方出版 pp1-241 2011)として出版した。

『台湾と日本』は出版と同時に毎日・読売・産経・中日・東京の各紙に書評が掲載され、『看護婦たちの南方戦線』は『産経新聞』と『京都新聞』がこれを大きく取り上げた。両書には読者から熱心な感想が寄せられ、いずれも出版まもなく日本図書館協会選定図書となった。

この二著出版の基礎となった調査と研究は、主に戦前・戦中を対象とし、統治下において高等教育を受けた人びとが「台湾の幸福」をどのように実現しようとし、台湾人民衆が戦時下をどう生きたのかを解明することに主眼をおいたが、取材過程において日本の統治を脱したあとの、激変する戦後の台湾社会を生きた後半生の重要性に気付かされることになった。台湾語でも北京語でもなく、日本語によってこそ複雑な思考や感情の機微の表現ができるこの人たちの、日本の社会と文化への思いの核心やその変遷は、戦後社会での彼らの実生活を知り、心の襞にまで目を注いで初めて、その精神史の全体を把握することが可能となる。だが、このことに着目し、彼らが生きてきた戦前と戦後をつなぎながら文化的精神的内実を具体的に明らかにした史的研究は、台湾においても日本においても皆無に近かった。

前記の二著刊行後に取り組んだ新たな主題、すなわち統治下に育ち戦後の台湾社会を生きた人びとの後半生とその精神史・社会史に関する研究成果は、2013年3月に国立台湾海洋大学で開催した「国際研討会 臺灣與日本の戦前・戦後」において、「台湾の中の戦後日本」と題して公表した。当日は、台湾の研究者や市民のほか、日本からの来場者もあり活発な意見が交換された。2014年3月には、国立台湾海洋大学海洋文化研究所から卞鳳奎副教授(現在は同研究所所長、教授)を招聘して国際シンポジウム「日本の近現代と台湾」を関西大学において開催した。当日は研究者・学生・市民が多数参加し、熱心な質問や意見が寄せられた。

2014年3月のシンポジウムでは、本研究代表者(大谷)と研究分担者(橋寺)は、前年のシンポジウム後に共同調査した台南の製糖工場跡に関わる研究成果を公表した。台南麻豆の製糖工場に勤務した李徳樹を探し当てた本研究代表者は、戦中に神奈川の高座海軍航空廠少年工に応募し戦後帰国して国営となった製糖工場に就職して現場一筋に勤め上げた彼の半生を紹介した。徳樹の兄は戦前の明治製糖会社から事務員として勤めたが、戦後は大陸から来住した人たちが事務部門に入ったため、台湾人の新規採用は現場のほかでは困難だった。シンポジウムでは、製糖工場と地域の変化を丹念に追った。李徳樹に会えたのは、高李麗珍への取材がきっかけとなった。麗珍の父は戦争末期にスパイ容疑で日本警察に逮捕され、戦後は兄が二二八事件で射殺された。彼女は、1950年代に日本の高等学校に留学し短大を卒業して、帰国後は台湾社会の福祉の向上に尽くした。

終戦の翌年に広東第二陸軍病院から復員した傅秀松は、中華民国国民政府軍将校の孫海峰と結婚し、国府軍兵士と家族の福祉に尽くすとともに、日本との社会的・経済的交流に力を注いだ。夫の孫海峰には、1944年に中華民国南京政府から日本の陸軍士官学校へ留学した体験があった。台湾に逃れた国府軍家族のために建設された軍人家族村の調査から、上海生まれの曹佩芳への取材に着手した。彼女は戦中に上海の日本企業に勤め、戦後国府軍将校と結婚したが、国共内戦で共産軍に追われ、夫とともに青島から台湾に向かう最後の船に乗った。

日本の統治下に育った台湾の人たちと、国共内戦を経て大陸から台湾に移住した人たちの

戦後史を、丹念な聞き取り調査と資料収集を通して、日本の文化や社会との関連で明らかにした研究は、日本においても台湾においても皆無であった。

2．研究の目的

本研究では、研究代表者（大谷）のこれまでの研究調査とその成果の上に立って、戦後の台湾社会を生きてきた人々から口述資料（録音）を収集し、これを編集し文章化して分析するとともに、手記や手紙、『台湾日報』など、戦前・戦後の新聞や雑誌記事、公文書等々の資料収集を並行して進め、これと関連する建物や街の変化の検証を研究分担者（橋寺）が担当し、それらの成果に十分な分析と考察を加え全体像を具体的に解明し、その現代史的意味を問おうとするものであった。

孫海峰は故人となっていて、日本の陸軍士官学校留学当時の経緯やその後について、直接口述資料を得ることは不可能だったが、本研究代表者は幸い彼と同期の留学生王威厘を見つけ出し、取材に応じてもらうとともに、写真、手記などの貴重な資料の提供を受けることとなった。孫は北平（北京）から、王は広東から日本に留学した。孫海峰の遺品は、妻の傅秀松が所蔵していて、提供を受けた資料の分析と関連資料の調査を進めることにした。陸軍士官学校中華民国留学生関係の資料は、防衛省防衛研究所図書館等で収集することとした。

本研究では、傅秀松・李徳樹・高俊明・李麗珍・鄭瑞康等々、戦前・戦中から戦後の台湾社会を生き延びた人びとに加えて、曹佩芳など国共内戦後台湾に移住した人びとへの取材にも取り組むこととなった。それらの中で、とりわけ戦後の二二八事件で兄を射殺された李麗珍と許麗娟は、中国共産革命から逃れて台湾に渡り日本宣教に従事した北欧自由キリスト教宣教団と深い交わりをもち、同宣教団を介して戦後の日本と台湾社会を密接につないで生きてただけに、同宣教団の足跡とそれを介した戦後の台湾と日本とのつながりに関する実態解明は、研究遂行上の発展的な重要課題となった。

3．研究の方法

本研究は、研究代表者（大谷）が2004年以降の台湾における研究調査を通して築いた強固な研究基盤の上に立って実施した。戦前・戦後において、日本との深い関係の中で生きてきた台湾の人びととのつながりとその協力のもとに聞き取り調査と文字資料の収集、及び関連建造物等の現地調査を行った。台湾と日本の外交機関で台湾側に設置されている亜東関係協会の理事を務めた楊劉秀華（現在は故人）及び社会活動家の孫傅秀松から研究推進上の支援を受けた。台中の教育者張徳卿、台南の宗教家高俊明（現在は故人）など、多くの人々から協力を得る準備を整え、聞き取り調査リストと現地調査リストを作成し、調査対象者の十分な理解と調査対象地の管理者の同意を得て実施した。あわせて、国立台湾海洋大学卞鳳奎副教授（現在は教授）の協力を得た。

台湾と日本で開拓伝道を行った北欧自由キリスト教宣教団の調査では、李麗珍と許麗娟の教会関係者の協力を得て日本国内各地と北欧、とくにノルウェー海外宣教本部日本宣教責任者等の協力を得て資料収集を進めた。

4．研究成果

本研究において収集した膨大な資料は、十分な分析と検討を加えて記録化し、『台湾の戦後日本 敗戦を越えて生きてきた人びと』（大谷渡 東方出版 pp1-226 2015）として出版した。

同書は、出版まもなく日本図書館協会選定図書となり、『出版ニュース』『毎日新聞』『読売新聞』がこれを取り上げて紹介した。同書出版記念として関西大学で開催した国際シンポジウムには、孫傅秀松（元台湾総督府海外派遣篤志看護助手、元中華婦聯總會婦聯一村工作隊長）を

台湾から招聘した。同シンポジウムには、一般市民・学生・研究者が多数参加し、研究代表者の基調講演、招聘者の特別講演、研究分担者の研究報告のほか、3人によるパネルディスカッションを行った。『台湾の戦後日本 敗戦を越えて生きた人びと』は、繁体字の中文に翻訳され、2019年4月に、『聆聽時代的變奏 跨越兩個時代的臺灣人』(大谷渡 遠足文化 pp1-232 2019)として台湾で出版された。

研究成果発信を目的として、北欧の女性宣教師と共に暮らした許麗娟を招いたシンポジウム「Miss.ハーゲンと瀬戸」は、瀬戸市文化センターにおいて2016年5月に開催した。同シンポジウムは、『朝日新聞』『読売新聞』『YOMIURI ONLINE』で報じられ盛況であった。

戦後の台湾及び日本と、深い関係をもった北欧自由キリスト教宣教団に関する研究成果は、『北欧から来た宣教師 戦後日本と自由キリスト教会』(大谷渡 東方出版 pp1-234 2018)として出版した。出版まもなく、『朝日新聞デジタル』『週刊仏教タイムス』『中外日報』『クリスチャン新聞』の各紙が同書を取り上げ、書評を掲載した。『朝日新聞デジタル』4月27日付は「北欧宣教師と福井の人々の交流描く著書発売」の見出しで大きく取り上げ、「青春群像を通して当時の地域の社会情勢が見えてくる」と報じ、『週刊仏教タイムス』(6月28日付)や『中外日報』(7月13日付)など仏教系新聞も、「伝道の足跡と、日本の若者たちとの交流のありようを、丹念な資料収集と調査・分析で明らかにしている」「地域社会史理解にも本書は役立つ」と紹介した。また、横浜市在住の同書購入読者からは、「失われつつある北欧の宣教師たちの記録をきちんと整理して下さったことを心から嬉しく思います。」との手紙が著者に寄せられた。

シンポジウム「北欧から来た宣教師と福井の人々」は、研究成果発信を目的として2018年5月に越前市文化センターにおいて開催した。同年6月には、ノルウェーのノートオッデンにおいて、国際シンポジウム「Japan Mission of Pentecostal Church of Norway」を開催した。ノルウェーでの国際シンポジウムには、多数の一般市民や研究者がオスロ等からも参加し、有意義な国際的学術文化交流の場となった。国共内戦後に、中国大陸から台湾に入って伝道に携わり、日本に移動して戦後復興期から高度成長期へと、信者も教会もない日本各地で開拓伝道に従事した北欧の宣教師たちと日本の若者たちとの出会いの核となったのは日本統治時代に育った台湾の若者たちであった。宣教師たちの足跡を戦後世界の史的状況に位置づけて解明した史実、すなわち、日本・台湾・北欧の市井の人びとの心温まる交流の史実は、本研究の達成によって初めて明らかになった。その成果を発信したノルウェーでの国際シンポジウムは、参加者と発表者の間に通常の研究集会を超える感動さえ実感できるものとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

1. 「Missionaries from Northern Europe : Free Christian Church in Post- War Japan」
大谷渡、『日本近現代史研究』、第6号、1-7 (2019)、査読無
2. 「Development of Township in Fukui: From Reconstruction to Economic Development」
橋寺知子、『日本近現代史研究』、第6号、9-12 (2019)、査読無
3. 「北欧自由基督教宣教団と戦後日本 - 台湾を経て日本へ」
大谷渡、『関西大学文学論集』、第66巻第4号、21-44 (2017)、査読無

4. 「記憶の中の台湾と日本(10) - 統治下に育った人びとの戦後の軌跡」
大谷渡、『関西大学文学論集』、第 65 巻第 3・4 合併号、53-75 (2016)、査読無

5. 「キーステン・ハーゲンの情熱 (Kirsten Hagen 's Devotion)」
大谷渡、『日本近現代史研究』、第 5 号、1-14 (2016)、査読無

6. 「ノルウェーの祈りの空間 - オスロ近郊シーを訪ねて」
橋寺知子、『日本近現代史研究』、第 5 号、21-27 (2016)、査読無

7. 「記憶の中の台湾と日本(9) - 統治下に育った人びとの戦後の軌跡」
大谷渡、『関西大学文学論集』、第 64 巻第 4 号、1-22 (2015)、査読無

〔学会発表〕(計 8 件)

1. 「Missionaries from Northern Europe : Free Christian Church in Post- War Japan」
大谷渡、国際シンポジウム「Japan Mission of Pentecostal Church of Norway」、ノルウェー
ノートオッデン、2018

2. 「Development of Township in Fukui: From Reconstruction to Economic Development」
橋寺知子、国際シンポジウム「Japan Mission of Pentecostal Church of Norway」、ノルウェー
ノートオッデン、2018

3. 「戦後日本と北欧の宣教師たち」
大谷渡、シンポジウム「北欧から来た宣教師と福井の人々」、越前市文化センター、2018

4. 「宣教師たちが暮らした福井の街のうつりかわり - 戦後復興から高度成長へ」
橋寺知子、シンポジウム「北欧から来た宣教師と福井の人々」、越前市文化センター、2018

5. 「キーステン・ハーゲンの情熱 (Kirsten Hagen 's Devotion)」
大谷渡、シンポジウム「Miss.ハーゲンと瀬戸」、瀬戸市文化センター、2016

6. 「ノルウェーの祈りの空間 - オスロ近郊シーを訪ねて」
橋寺知子、シンポジウム「Miss.ハーゲンと瀬戸」、瀬戸市文化センター、2016

7. 「『台湾の戦後日本』を出版して」
大谷渡、国際シンポジウム「『台湾の戦後日本 敗戦を越えて生きた人びと』出版記念」、関
西大学、2015

8. 「日本統治時代における近代建築」
橋寺知子、国際シンポジウム「『台湾の戦後日本 敗戦を越えて生きた人びと』出版記念」、
関西大学、2015

〔図書〕(計 4 件)

1. 『聆聴時代的變奏 跨越兩個時代的臺灣人』
大谷渡、遠足文化、232 ページ (2019)、査読有

2. 『北欧から来た宣教師 戦後日本と自由キリスト教会』
大谷渡、東方出版、234 ページ (2018)、査読有

3. 『太陽旗下の青春物語 活在日本時代的臺灣人』
大谷渡、遠足文化、255 ページ (2017)、査読有

4. 『台湾の戦後日本 敗戦を越えて生きた人びと』
大谷渡、東方出版、226 ページ (2015)、査読有

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：橋寺 知子

ローマ字氏名：Hashitera, Tomoko

所属研究機関名：関西大学

部局名：環境都市工学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：70257905

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。